

## 平成27年度 入学宣誓式 学長告辞

本日ここに入学宣誓式を迎えられた 学部生665名、大学院博士前期課程512名、博士後期課程27名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表し、心から歓迎の意を表します。新入生諸君をこれまで育ててこられたご家族始め関係者の方々に心からお喜び申し上げますとともに、皆さんの新しい力を迎え入れることができたことは、私たち京都工芸繊維大学にとって、誠に大きな喜びであります。

京都工芸繊維大学は、116年の歴史を誇る理工系大学であり、科学と芸術の融合を目指して教育研究活動を行っています。大学理念を大胆に簡略化すれば、知と美と技、そして学風の底流に流れる京の四文字に縮約することができます。我々はこのキーワードが指し示す方向に向かって大学活動を推進するため、教育・学生に対しては学域制、教員・研究に対しては学系制、社会貢献活動に対しては機構制を導入し、大学の個性と強みをのばしていくために大胆な組織改定を断行しました。松ヶ崎キャンパス以外にも嵯峨地区の再整備や京都府北部京丹後市、綾部市、福知山市にも活動拠点を整備し、東京オフィスやフランスのパリ、タイのバンコクやチェンマイにも活動拠点を拡大していく計画です。京都工芸繊維大学は今まさに、君たちとともに、この松ヶ崎から世界に向かって新たな一歩を踏み出そうとしています。

京都工芸繊維大学は、昨年秋に、スーパーグローバル大学に選定され、一昨年には、文部科学省から機能強化重点大学として全国立大学86校中12校の一つに選抜されました。これは世界的な競争力をつけ、世界で戦える大学になれ、という意味です。まさしく大学の名誉であり、誇りであり、こうした絶好の機会が得られたのも、本学の卒業生や先輩たちの努力と実績が認められたからであり、新入生諸君にもこれに勝る活躍を期待しているところです。

本学の学生は、専門分野における基本知識と専門技能をよく修得し、優秀な技術者としての評判が高く、企業や社会から高い評価を得ています。したがって私たちは、皆さんの学習意欲や基礎的能力について、一点の疑いも持っていません。

とはいえ、小規模校であるがゆえに知名度が低く、悔しい思いをすることもあるかもしれません。しかし専門分野においては京都工芸繊維大学の实力は皆さんが想像する以上に認められています。したがって自らを過去の価値観やイメージの中に縛りつけ、世評によって自らを過小評価してはなりません。実際には、理工系の教育や研究を遂行していくための環境や条件は、すべての国立大学である程度基準化されています。したがって、諸君が教育現場で規模を意識する場面はあまりないと思います。むしろ大学運営をする上において、小さいことの強みを積極的に活かした運営を行ないたいと考えています。そして小さくとも質が高く、魅力的ですべての分野が光を放つ、キラキラと輝く宝石のような大学をめざしたいと思います。

研究活動でいえば、本学の重要なミッションは世界でオンリーワンの研究や技術を開発することです。アメリカ東部のジェネリアファームという研究所では、スモールラボ+ビッグサイエンスをテーマに掲げて研究活動を行っています。本学の研究活動においても、小さな研究室から大きな科学を生み出すために、流行に流されない研究を大切に、他大学でもできる研究は他大学に任せ、リスクを冒して挑戦している研究室が尊敬される雰囲気醸成しなければなりません。

同時に、研究室のタコ壺化を避け、国際化を図るため、ユニット招致事業によって海外有力校から、研究チームを本学に招聘し、共同研究、共同教育を展開していきます。ハーバード大、スタンフォード大、スイス連邦工科大、ケンブリッジ大、ロンドンのロイヤルカレッジオブアーツとの連携をさらに強化したいと考えます。

教育・人材育成の観点からは、世界的な競争力を強化するために、今後10年間をかけて大学全体の国際化計画を実施します。スーパーグローバル事業を活用し、若手教員を毎年10名、海外に派遣し、教育水準の国際化を図ると同時に事務職員の方も海外派遣することによって事務局各課の国際化を図ります。学生諸君も留学や海外インターンシップに参加して頂き、全ての学生が海外体験を経験してから社会に出ていくことが大切です。海外での体験学習を経て、海外で活躍できる人材、職場でリーダーシップを発揮できる人材、我々がテックリーダーと呼ぶ人材を輩出していきたいと考えます。英語力という点からはTOEIC730点を平均値として教育プログラムが設計されています。皆さんも決して気後れすることなく、粘り強く英語の勉強を続けていただきたいと思います。

一般に、大学の活動は、教育・研究・社会貢献の3つの領域から構成されていますが、近年、社会貢献活動の重要性が大きくなってきています。

社会貢献はいわゆるボランティア活動ではありません。本学においては、COC、COI、COGの3つの拠点形成事業を意味しています。COCは、センターオブコミュニティの略で、大学は地域の核となって地方活性化に寄与すべし、COIはセンターオブイノベーションの略で、大学はイノベーション創出の核となって産業界に貢献すべし、COGはセンターオブグローバルイノベーションの意味で、国際化の拠点を形成し、世界競争力を強化すべし、という意味です。

地域の核としての活動は、文部科学省のCOC事業に選ばれたことから、京都府北部のサテライトキャンパスを拠点として、北部5市2町の地域活性化に貢献しています。COI事業では、文部科学省事業に採択された京都COIのサテライト拠点として、企業と共同してイノベーション事業の社会実装化に努めています。さらに国際競争力を高めるために、ユニット招致を通じて海外の有力大学から、講座を丸ごと本学に招致し、共同教育や共同研究を展開します。逆に留学やインターンシップを強く推進するために、海外に拠点を整備し、学部4年次と修士課程を一体的に運用し、外国への学生派遣事業を量質ともに増大する予定です。

本学は今、大胆な大学改革を断行し、限られた資源を有効活用して世界に冠たる大学になるために尽力しています。キャンパスは、高揚感に包まれ、意欲と勢いに満ちています。大学改革という大きな歴史の節目に入学された皆さんも、この雰囲気を感じ、我々が提供するさまざまなプログラムに積極的に参加していただき、自らを鍛えるためにも幅広い経験を積んでいただきたいと思います。狭い専門領域に閉じこもらずに、本学4000名の学生、300名の教員の知識と技術を十分に活用して頂きたい。君たちに望むのは、専門家になることに満足せず、専門家を傾使する力、専門家を活用して新たな技術革新を起こす能力を涵養して頂きたいということです。

このためには、専門性を超えた人間力の涵養を図ることが大切です。人間の素晴らしさだけでなく、動物の中でも極めて特殊な動物である人間の欠点や弱点について、自分なりの評価と理解に基づく人間観を形成することが大切です。

そもそも人間とは何か？人間は何でできているか？ 人間は水でできている。人間は繊維でできている。では人間の精神は何でできているか？人間の精神は言葉の網の目でできている。こうした大きな問いについて考え、先達、賢人の出した答の意味を考えること。あるいは答えが出ない問題ときちんと向き合うこと。それは人生の大きな見通しを得るために必要なことであり、青年期後期の人格形成に大切な役割を果たします。

今日から皆さん方は、京都工芸繊維大学の構成員です。皆さんは授業料を払って勉強を習いにきている単なるお客さんではありません。国立大学という教育研究機関の学生と云う身分の構成員です。大学生活では学則その他の規則を順守するだけでなく、人としてやってはいけないこと、人としてやるべきこと、人間的な判断ができる強い意志と高い見識を養っていただきたいと思えます。京都工芸繊維大学をよく知り、そして好きになること。それが自らの学習と研究活動に自信と誇りを与え、より困難な課題、より高い課題に取り組む勇気を与えてくれます。私たちの研究成果や教育成果は、常に世界とつながっており、海外からも見られていることを意識して学生生活を送ってください。勉学や研究において、一つでも多くの感動を体験し、それらを友人と共有することによって、実り豊かな学生生活を送られることを祈念しています。

平成27年4月6日

国立大学法人 京都工芸繊維大学長

古山正雄